

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成27年2月)

～現状判断DIは3ヶ月連続で上昇、節目となる50を突破～

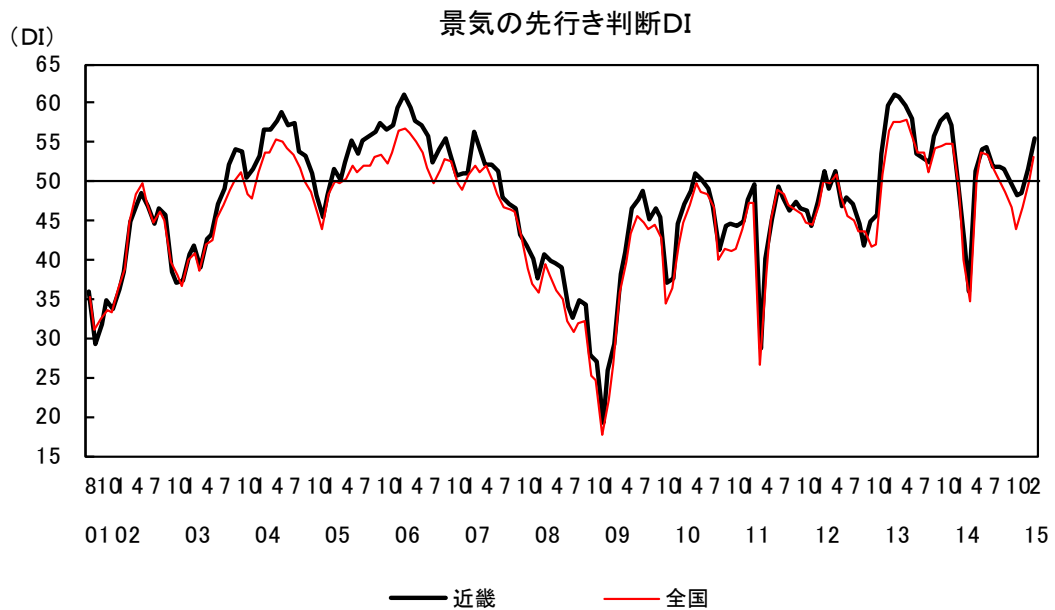
- 景気ウォッチャー調査・2月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が3か月連続で上昇したほか、先行き判断も3か月連続の上昇となった。
- 足元の状況については、消費の回復に関する声が増えてきているものの、その中心は百貨店やホテル関連といった従来からの好調業種であり、顔ぶれに大きな変化は感じられない。また、その一定部分は春節関連で大きく盛り上がったインバウンド関連が占めていることから、3月以降も回復の声が続くかどうか注目される。
- 企業を取り巻く環境については、原油相場の低下による好影響が期待される一方、円安の進行による原材料コストの上昇の影響も続いており、状況としては大きな変化は感じられない。
- 先行きは、原油相場の低下のほか、昨年並みの賃上げによるプラス効果に期待する声が増えている一方、諸物価の上昇に対する懸念の声も依然として聞かれる。また、円安の進行による企業収益の悪化懸念や、消費者の節約志向に対する懸念の声も依然として残っている状況である。

「インバウンド」関連のコメント(現状判断・家計関連)

な っ て い る 良 く	百貨店(服飾品担当)	・例年2月は冬物と春物の端境期であり、冬物が終了しても、春物はまだまだ気温の影響で売れない。ただし、今年は最近の傾向である、外国人観光客の買上が特に都心店舗で多く、化粧品や雑貨商材の売行きが好調に推移している。本国に未展開の商材は特に人気であり、まとめ買いをする客が多数みられた。一方、国内消費は春物というよりも新商材への反応が良く、消費税増税前の駆け込み需要があった前年を超える勢いがある。
	観光型ホテル(経営者)	・地元の同業者からも、来客数が増え、宿泊予約を断ることが非常に多くなっているとの話を聞く。また、2月の旧正月前後はアジアからの外国人客も多く、販売量の増加につながっている。
な っ て い る や 良 く	一般小売店[鮮魚](営業担当)	・インバウンド客によって来客数が増えており、相乗効果で日本人の来店も増えている。
	百貨店(営業担当)	・インバウンド客の売上は驚異的に増えている。さらに、月後半からは富裕層の優良顧客による、海外の高級ブランド品や金製品の仏具などへの引き合いがあり、好調に推移している。
	百貨店(外商担当)	・宝飾品や高級時計のほか、海外ブランド品が依然として好調に推移している。昨年は消費税増税前の駆け込み需要が始まっていたことを考えれば、売上は堅調である。また、インバウンド関連の売上はかなりのペースで増えており、店の売上を支えている。
	百貨店(売場マネージャー)	・担当している売場ではインバウンド効果が大きく、他店に比べるとまだまだではあるものの、消費の力強さを感じる。
	スーパー(店長)	・消費税増税から間もなく1年を迎え、消費には影響が織り込まれつつある。株価も高値を更新し、春節などのインバウンド関連も活況であるなど、景況感は好転している。ただし、衣料品や住居関連では、昨年の消費税増税前の駆け込み需要の反動が出ている。
	一般レストラン(経理担当)	・春節により中国からの来客数が増加している。通常であれば2、8月は低迷するが、その部分をインバウンド客の増加でカバーしている。
	その他飲食[コーヒESHOP](店長)	・円安や春節の影響で、アジアを含めた観光客の需要が目に見えて増加している。
	都市型ホテル(スタッフ)	・宿泊は稼働率、単価共に上昇を続けている。特に、東アジアからの団体客やテーマパーク目当ての国内客の増加が継続しており、ここ1年は同じような状況となっている。一方、宴会部門は前年比で若干の増減はみられ、今月は何とか前年を上回ったものの、食堂は個人客の減少に歯止めがかからない。特に、ディナータイムが大幅に減少している。
	都市型ホテル(総務担当)	・海外からの客が多く、全体的に客室単価を押し上げている。
	都市型ホテル(客室担当)	・大阪の観光需要は依然として好調であり、インバウンド関連も順調に予約が伸びている。稼働率も秋の好調時と変わらない水準で推移している。

変わらない	商店街（代表者）	・昨年11月以来、売上が好調である。インバウンド効果で前年よりも数%増加している。	
	百貨店（売場主任）	・月前半はバーゲンの動きが良く、好調に推移したが、中盤から後半にかけて失速し、売上目標は未達となる見込みである。インバウンド客の需要は高まっているが、国内客の消費動向は慎重である。欲しい商品は少々値段が高くても購入するが、低価格指向も強まっており、二極化が一層進んでいる。	
	百貨店（売場主任）	・依然として、購買動向は日々変化している。限定品や特定のブランド品の動きは良いが、季節品やブランド品ではない商品は不調である。海外からの観光客には活発な動きがみられるが、一時的なものと考えられる。	
	百貨店（売場主任）	・中国人を中心としたインバウンド客の消費増で、表面上は売上を維持しているが、昨年の消費税増税前の駆け込み需要で増えた売上を上回れるかどうかは、綱渡り状態にある。	
	百貨店（売場主任）	・春節による外国人観光客の売上増加や、昨年の消費税増税前の高額品を中心とした駆け込み需要の反動減により、ほぼ前年並みの売上となっている。	
	百貨店（企画担当）	・春節でたくさんの訪日外国人が関西を訪れているため、外国人向けの売上は伸びているものの、従来の客の買物状況は変わらない。	
	百貨店（サービス担当）	・今月はバレンタインフェアや春節による中国人観光客の増加により、店頭はにぎやかな雰囲気となり、来客数などは好調に推移した。ただし、日本人の購買意欲が低下しており、店全体としての売上傾向に変化はなく、前年並みの水準で推移している。	
	百貨店（商品担当）	・百貨店ではインバウンド向けの売上だけが順調で、売上が伸びている。ただし、それ以外では苦戦している。	
	百貨店（販促担当）	・高級ブランドの不振などで、客単価が低下している。消費税増税前の駆け込み需要の反動が高額品に出ており、客単価を押し下げている。来客数は堅調に推移しており、インバウンド関連の売上も前年比で3倍と好調ではあるが、反動減を吸収しきれていない。	
	百貨店（商品担当）	・売上シェアが高い冬物セールは大変厳しく、全体的には不調である。ただし、中国を中心としたインバウンド客向けの売上は好調に推移している。	
	百貨店（売場マネージャー）	・月前半はバレンタイン需要などもあり、来客数は回復気味に推移した。ただし、昨年の消費税増税前の駆け込み需要により、後半になるにつれて販売量の前年比は厳しい状況にある。春節などでインバウンド関連は好調に推移しているが、足元の状況は厳しい。	
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・当社のドラッグストアには免税店舗が2店舗しかないが、インバウンド客による消費の効果が出ている。特に目立った商品はないが、化粧品をはじめ、目薬や健康食品などの日本製の商品はよく動いている。	
	その他専門店〔食品〕（経営者）	・特に変化は感じない。外国人観光客をターゲットにした小売店やホテル業界などの一部は販売量が上向いているが、全体からみれば限定的である。	
	なや悪く	都市型ホテル（支配人）	・中国を中心にインバウンド客が増え、宴会やレストラン部門の売上減少分を宿泊部門でカバーしている。売上全体では微増となっているが、まだ景気が回復した状態とはいえない。
		都市型ホテル（管理担当）	・台湾、中国を中心とした外国人客の宿泊に伴い、客室部門は引き続き伸びている。ただし、国内客の個人、企業の需要に関しては伸び悩んでいる。また、このところの原材料や電気料金の高騰により、利益率が圧迫されている。
その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）		・インバウンド客の動きは好調であるが、国内客に関しては特に手ごたえが感じられない。	
なや悪く	一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・2月は春節があり、外食などは外国人観光客などの影響を受けているが、外国人を除いた消費については、節分以降は動きが鈍いと感じる。普段はできるだけ節約して、イベントの時にだけお金を使う動向が強くなってきている。	
	スーパー（店長）	・前年のこの時期は、消費税増税前で売上が増え始めたため、今年は重衣料、寝具、家電、化粧品などの売上の前年比が厳しい。3月は更に厳しくなり、月末は食品や消耗雑貨も前年実績を超えられない状態が続く。新商品や話題の商品などの動きが良いことだけが、明るい材料である。一方、こだわりの商品、健康商品は売れているほか、インバウンド関連も好調である。	
なや悪く	一般レストラン（経営者）	・梅田や難波は春節で売上が増えているが、商店街には何の影響もなく、消費者の財布のひもはますます固くなっている。	

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 13												年 14												年 15	
		月 2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
現 状 判 断	近畿	56.8	61.3	59.6	58.7	54.9	53.2	51.4	54.6	52.8	55.8	56.1	55.6	56.3	60.8	43.6	45.9	47.9	51.4	49.3	49.4	47.0	45.4	47.6	47.8	53.3	
	(全国)	53.2	57.3	56.5	55.7	53.0	52.3	51.2	52.8	51.8	53.5	55.7	54.7	53.0	57.9	41.6	45.1	47.7	51.3	47.4	47.4	44.0	41.5	45.2	45.6	50.1	
先 行 き 判 断	近畿	61.2	60.7	59.6	58.1	53.5	52.9	52.3	55.9	57.7	58.5	57.3	49.9	42.0	36.0	51.4	54.1	54.5	51.9	51.9	51.5	50.0	48.2	48.6	51.6	55.5	
	(全国)	57.7	57.5	57.8	56.2	53.6	53.6	51.2	54.2	54.5	54.8	54.7	49.0	40.0	34.7	50.3	53.8	53.3	51.5	50.4	48.7	46.6	44.0	46.7	50.0	53.2	